



2017年11月発行

## 徴税人ザアカイに訪れた人生最高の日

今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。

(ルカによる福音書 19章 9節)

ザアカイは、徴税人の頭で金持ちでした。今で言えば税務署長です。現代では「税務署で仕事しています」なんて言ったら、「良いお仕事ですね」と言われるでしょう。しかし、この時代は違います。徴税人は同胞であるユダヤ人から税金を集め、それをローマ帝国におさめる仕事をしていました。これをユダヤ人の側から見ると、「あいつらはにつくき敵のローマの手先となって、自分たちが汗水たらして蓄えた大切なお金を取り立てているんだ」ということになってしまい、けしからん奴だと思われていました。徴税人はユダヤ人でありながらユダヤ人とはみなされません。さらに神様の恵みにあずかれない罪深い者だとさえ考えられていました。そうしたことが当人たちをどんなに傷つけていたか、言うまでもありません。

しかしザアカイは、自分から望んでそのような道を歩んでいったのではないはずです。このザアカイを皆さんと一緒にしてしまうのは気がひけますが、少しでも世の中で働いた経験がある方なら、多かれ少なかれ不本意な生き方を余儀なくされたということがあると思うのです。つまり、自分はそうしたくはなかったのにそうするしかなかった、その中には自分の良心に反し、悪いとわかっていることでもしなければならぬということもあるでしょう。もちろん社会の中で素晴らしい人との出会いがあれば、心に残る感動的な出来事もありますが、…自分は良心に恥じない生き方をしてきたと胸をはって言い切ることができる人がどれほどいるのでしょうか。

さてザアカイは、イエス様がどんな人かのぞいて見ようとしましたが、群衆に遮られたため、先回りをしていちじく桑の木に登りました。すると下を通りがかったイエス様が、なんと上を見上げて「ザアカイ、急いで降り

て来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」と声をかけたのです。ザアカイはたいへんに驚き、また喜びました。それは、イエス様が自分のような、世間でまともな人間とは思われていない者に声をかけて下さったからです。

こうしてイエス様はザアカイの家の客となりました。二人の間にどんな会話がかかわれたのかわかりませんが、このあとザアカイは「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだましとっていたら、それを四倍にして返します」と言っています。それまで人々からつまはじきにされて、ただお金のためだけに生きていたザアカイが、そのお金を差し出すというのは大変なことで、これはザアカイの中で魂の変革が起こったことを証しているのです。

イエス様は言われました。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。』」。

アブラハムは神の民ユダヤ人の祖先です。ザアカイがアブラハムの子であるというのは、だから彼も神の民の一員なのだということです。ザアカイはそれまで、自分のような者は人々からはもちろん、神様からもしりぞけられていると思っていました。しかしイエス様は、お前もかけがえのない人間なのだ、決して神様の前から行方知らずになったままでいい人ではないと言われます。イエス様の言葉を、ザアカイは神様の言葉として受け取りました。

このことは、ひとりザアカイばかりでなく、イエス様に会ったすべての人が体験することなのです。イエス様がザアカイを訪れたことは、神様の訪れでもありました。ザアカイはだからあんなにも喜び、人間として生まれ変わり、その喜びをさらに家族や多くの貧しい人々と分かち合うまでになりました。ザアカイに現われたイエス様はいま皆さんに、ご自分の招きに応えるようにと呼びかけておられます。皆さんは、どうなさいますか。

(2016年11月19日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊